Ⅳ　小学部の取り組み

１　小学部研究方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

２　小学部研究経過と予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

３　学部研究の実際

(1) 提案授業の実践報告会の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

(2) 観点別評価の実践と主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けた授業研究・・20

【提案授業】５・６年　生活単元学習「コロナ対策を考えよう」・・・・・・・・・ 21

幼稚部・１年　遊びの指導「段ボール遊びをしよう」・・・・・・・・・・・・・・ 30

３年　生活単元学習「作ってみよう！～おいしいおにぎりをつくろう～」・・・・ 37

４年　遊びの指導「ころころキャッチゲーム」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

５・６年　日常生活の指導「むしばきん、ばいばいきん」・・・・・・・・・・・・ 51

４　宮特授業改善のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

５　学部内報告会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58

６　小学部研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

Ⅳ　小学部の取り組み

1　小学部研究方針

(1) 学部研究の内容を以下の通り行う。

①　観点別評価の理論の確認

②　主体的・対話的で深い学びの授業改善の理論の確認

③　①、②を踏まえた上で、観点別評価を実現する主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組む。

(2) 授業実践及び評価実践の研究は学習グループ単位で行う。取り組む教科・領域等は自由。

(3) 学習指導案様式及び個別の評価記録様式は必要があれば、各グループで検討の上、変更することができることとする。

(4) 学習指導案、個別の評価記録は学習グループ内で話し合って作成することとする。

(5) 観点別学評価や授業改善について疑問や意見等があれば、その都度学部研修で確認を行う。

2　小学部研究経過と予定

学期	小学部研修内容
一学期	○小学部研修方針の検討、決定【６月】 ○実践研究のスケジュールや方法の確認【７月】 ○各学習グループ実践研究①の指導案作り、実践、評価記録作成等【８月】
二学期	○各学習グループ研究授業及び授業研究会【９月】 ○実践研究①の成果と課題まとめ【10 月】 ○実践研究の報告会【10 月】 ○各学習グループ実践研究②の指導案作り、実践、評価記録作成等【11 月】 ○小学部研究の成果と課題の整理【12 月】 ○各学習グループ公開授業【12 月】 ○実践研究②の成果と課題まとめ【12 月】
三学期	○年間指導計画様式の検討【１月】 ○年間指導計画の内容の検討【１月】 ○次年度年間指導計画の作成【２月】

3　学部研究の実際

(1) 提案授業の実践報告会の実施

全体研修で行った提案授業及び授業研究会を受けて、今後各学習グループでどのように実践研究を行っていくかという方向性の確認のために「コロナ対策を考えよう」（提案授業）の単元の実践報告会を行った。単元全体を通してどのように主体的・対話的で深い学びを生み出し、計画的に観点を明確にした目標を立て、評価をしていくかということの確認を行うとともに意見の交換を行った。「本時のめあてだけでなく、単元を通した目標と学習計画を子どもに伝えること」「子どもが考え、判断できる支援の工夫」「自分で、自分の成長に気付くことのできる自己評価の工夫」等について意見の交換をすることができた。

(2) 観点別評価の実践と主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けた授業研究

学習指導要領を基に観点別の目標を立て、単元を通して評価していく学習指導案と個別の評価記録を作成し、授業研究に取り組んでいくこととした。小学部では、授業研究を３タームに分けて行うこととした。

期間	第１ターム ６～７月	第２ターム ８～１０月	第３ターム １１～１２月
学習グループ	各学習グループ		
教科・領域等	自由		
研究実践の足跡	・成果と課題、感想 （新型コロナの影響で学習指導案等の作成はなし）	・学習指導案 ・個別の評価記録(1 部) ・実践研究の流れ ・成果と課題、感想	・学習指導案 ・個別の評価記録(1 部) ・成果と課題、感想

第１タームは、学習グループ毎に授業改善の３つのポイントを意識した授業実践に取り組み、取り組んだ成果と課題の整理と情報の共有を行った。

第２タームでは、学習グループ毎に学習指導案を作成し、授業実践に取り組んだ。８月中に研究授業の動画を撮影し、９月９日に授業研究会を行った。研究授業の振り返りシートの作成にも取り組んだが、個別の評価記録の記述と重なるところも多く、効果的な活用ができなかった。授業研究会では「考える『間』を、計画の段階で入れておくことの大切さ」や「学んだことを、学校だけでなく寄宿舎や家庭でも共有することで『学びの意識化』が図られる」等の意見交換が行われていた。授業研究会で得た意見やアイディアを基に学習グループ毎に授業改善を行った。個別の評価記録を毎授業後に記録することは難しく、単元終了後に記録をしていた。

第２タームでの学習指導案作りに負担感を感じる職員が多かったため、より実効性を高めた学習指導案として略案の様式を整え、第３タームでは学習指導案略案の作成に取り組み、１月 18 日の最終報告会において公開授業を実施する予定である。

授業研究の目的と流れについては以下のように確認を行った。

〈授業研究の目的〉
観点を明確にした評価実践、主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組む。

〈授業研究の流れ〉
① 単元の授業者を中心として学習指導案を作成する。
↓
② 授業実践を行う。並行して個別の評価記録も作成する。
↓
③ 単元や題材終了後、個別の評価記録を完成させる。
↓
④ 個別の評価記録を基に次の単元や題材の学習計画を立てる。
↓
⑤ 単元の実践研究の成果と課題をまとめる。

以下、各学習グループの取り組みを、〈単元の概略〉〈授業研究の実際〉〈成果と課題〉〈学習指導案〉〈個別の評価記録〉〈振り返りシート〉の項立てで載せていく。個別の評価記録は代表児のみ。

提案授業　５・６年　生単「コロナ対策を考えよう」　　【６月】

〈単元の概略〉

５・６年男児３名、教師１名、週４時間、国語と算数の学習を行っている。本単元は学習指導要領国語科の「聞くこと・話すこと」の内容を中心に生活単元学習として「コロナ対策を考えよう」の学習に取り組む。

３名の児童は「話す」ことに比べて「聞く」ことは苦手にしている。自分の考えや思いを話す経験は多いが、人の話を聞いて、そのことについて考え、意見を述べる等、「話し合い」の経験が少ないことが一因として考えられる。本単元では「聞く→考える→話す」という一連の流れを重視し、ニュースやネットの情報や教師、友達との意見の交流を通して自分なりの考えを持つことを目標に取り組んでいく。

単元の最後に、自分達が獲得したコロナウィルスについての「知識・技能」を模造紙にまとめたり、人に伝えることを意識してニュース動画を作成することで、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」の実現を目指す。

〈授業研究の実際〉

① 学習指導案、評価記録の他に、「主体的に学習に取り組む態度」を養うための支援ツールとして「勉強の計画」と「OPP シート」を作成、活用を計画。

② 授業実践を行い、並行して個別の評価記録も作成。毎回の授業後に付けることは難しく、２～３時間に一回（週に１・２回程度）まとめて記録を取った。児童の発言を「勉強の計画」や「OPP シート」に残していたので評価がしやすかった。

③ 授業研究会で「児童同士の話し合いをすることで学びに深みが出る」との助言を頂いた。単元の後半の動画づくりの際に児童同士の話し合いを行うことで、自分達なりの考えを形成することができた。

④ 本単元終了後、個別の評価記録を完成させた。単元の課題として、知識は増えたが、知識を体験的に理解したり、生活の中で生かしていこうとするような深い学びにまでは至らなかったことが挙げられる。聞くことで知ることが多く体験的活動が少なかったことが要因として考えられる。体験的活動を基に考える授業展開が求められる。

⑤〈授業研究の成果と課題〉成果→○　課題→●

○ 「個別の評価記録」を活用して、本単元で不十分だった観点の評価を基に別の単元（国語科）の構想を練ることができ、「個別の評価記録」の有効性を確認することができた。（ex 国語科の時間に児童同士の話し合いの学習場面を作る）【年間指導計画の改善】

○ 「勉強の計画」を活用することで、児童が学習の見通しをもちやすくすることができた。【「勉強の計画」の有効性の確認】

○ 動画を見ることで、授業の改善点を客観的に知ることができた。【動画視聴による授業の振り返りの有効性がわかった】

● 「OPP シート」の活用が効果的にできなかった。「本時で大切なこと」ということについて根拠を持って書くことのできる授業内容になっていなかった。授業内容に深みをもたすことができなかった。児童にとって深い学びが実現されて初めて「OPP シート」の活用が可能となる。【深い学びの授業展開の実現が課題】

・ 学習指導案の中で、本時の個別の評価基準を作成せずに実践を行い、評価も実施。評価者が一人しかいない場合は基準がなくとも良いと考える。

生活単元学習指導案

令和２年　６月 11 日　４校時　場所：学習室
小学部　５・６年生　男子３人
指導者　大嶺耕一

【小学部の育てたい資質・能力】　「かかわる力」
～集団の中で、自分らしさを発揮し、充実感を味わいながら、自分から、人や物に働きかけ、活動する力～

【教科として中心となる目標】
特支要領小学部、国語３段階　聞くこと・話すこと　カ「相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。」

１．単元名「コロナ対策を自分で考えよう」

２．単元設定の理由

(1) 児童観

3 名の児童は国語の学習を通して、「聞く・話す」活動に取り組んできた。「絵日記を書こう」の単元では、「知らせたい体験を決めて必要な事柄を思い出し、語と語、文と文とのつながりに気を付けて書き、交流をすることができる。」ことを目標に取り組んだ。どの児童も、体験を簡単な定型文に当てはめて「いつ、どこで、だれと、なにを、どうした。どう思った。」ということを書き、読んで発表することができた。また、書いた内容について教師が質問をすると、より詳しく体験について話すこともできた。一方で、３名の児童は「話す」ことに比べて「聞く」ことは苦手にしている。自分の考えや思いを話す経験は多いが、人の話を聞いて、そのことについて考え、意見を述べる等、「話し合い」の経験が少ないことが一因として考えられる。本単元では「聞く→考える→話す」という一連の流れを重視し、ニュースやネットの情報や教師、友達との意見の交流を通して自分なりの考えを持つことを目標に取り組んでいく。

(2) 単元観

本単元では、「聞くこと・話すこと」の内容を中心に学習を進めていく。特別支援学校学習指導要領小学部、３段階のＡ「聞くこと・話すこと」の中の以下の内容を中心に取り組んでいく。

ア　絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。
ウ　見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。
カ　相手の話に関心を持ち、自分の思いつきや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること

教材として取り上げる新型コロナウィルスは児童の生活にとって身近なものであり、見聞きしたことも多いと考えられる。「新型コロナウィルス＝怖い病気」「手洗いをすることは大切」等の「知識・技能」は持っているものと考えられる。しかし、その「知識・技能」は教わったものであり、自分で新型コロナウィルスについて深く考えたことはないと予想される。新型コロナウィルスに対する「知識・技能」を「知っている・できる」レベルから自分なりに解釈したり、関連付けたり、比較することで「わかる」レベルへと引き上げ、さらに教師や友達と対話することを通して深く学ぶことで「使える」レベルの「知識・技能」を獲得していくことを目指して取り組んでいく。

(3) 指導観

本単元では、「主体的・対話的で深い学び」が行われるよう指導を行う。

	指導方法	観点との関連
主体的	①単元の始めにコロナウィルスについて学ぶ意義を知り、毎時間授業の始めに確認を行う。 ②単元の始めに学習の計画について知り、毎時間授業の始めに確認を行う。また、単元の最後に「コロナニュース」を作ることを目標に見通しを持って学習活動を進めていく。	「主体的に学習に取り組む態度」
対話的	①コロナウィルスについて教わることで「知識・技能」を習得するだけでなく、ニュースやインターネット等で情報を集め、それを精査したり、教師や友達と対話をすることで自らの考えを広げたり、深めたりすることでコロナウィルスについての「生きて働く知識・技能」を獲得していけるようにする。	「思考・判断・表現」
深い学び	①獲得したコロナウィルスについての「知識・技能」を基に、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、これからの自分達の生活がどのように変化していくかについて自分なりの考えを持てるようにする。 ②単元の最後に、自分達が獲得したコロナウィルスについての「知識・技能」を模造紙にまとめたり、人に伝えることを意識してニュース動画を作成することで、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」の実現を目指す。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

３．単元目標

生きて働くコロナについての「知識」を「思考力・判断力・表現力」を発揮させながら「主体的に」獲得していく。

４．単元の観点別目標（評価規準）

(1) コロナウィルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。感染予防策ができる。【知識・技能】

(2) ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。【思考・判断・表現】

(3) 粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持とうとしている。自分が新しく分かったことと分からないことについて分かろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

５．学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	四時間	・コロナウィルス感染症についての基本情報を調べる。 ・コロナウィルス感染症の現在の状況について調べる。（経過や世界の状況等） ・コロナウィルス感染症対策の方法や意義について調べる。 ・緊急事態宣言や休校措置、経済問題について調べる。	◎	○	
二	四時間	・新しい生活様式について考える。 ・コロナウィルス感染症によって、自分の生活の変わること、変わらないことについて考え、判断する。 ・コロナウィルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。	○	◎	
三	四時間	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る ・本単元の学習を振り返り、新しくわかったことと、わからなかったことを認識する。 ・自己評価と他者評価を行う。	○	○	◎

６．単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	コロナウィルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持とうとしている。自分が新しく分かったことと分からないことについて分かろうとしている。
B	コロナウィルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。感染予防策の意義を理解している。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持とうとしている。自分が新しく分かったことについて認識している。
C	感染予防策の意義を理解している。 感染予防策ができる。	ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。学習に見通しを持とうとしている。

７．本時の学習（ 一の４時）

(1) 本時の目標

調べた情報や人の意見を参考にして緊急事態宣言や休校措置の内容と意義について考え、説明することができる。【思・判・表】【主体的】

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	緊急事態宣言の内容と意義について説明できる	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えることができる	
B	緊急事態宣言の内容と意義について説明できる	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えることができる	
C	緊急事態宣言の内容と意義について知る	ネットの情報や教師の提示する情報、教師や友達の意見、前時までの学習を参考に緊急事態宣言の意義について粘り強く考えようとすることができる	

(3)本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入１０分	① 前時までの学習の振り返りを行う。 ② 本時のめあて（問い）を確認する 緊急事態宣言ってなに？	【主】 【主】	・「学習の計画」、ＯＰＰシートを使って振り返りを行う ・めあての達成が児童にとってどのような資質・能力の成長につながるかを説明する。	・「学習の計画」 ・OPP シート
展開２５分	③ 緊急事態宣言についての情報を、パワポを見てクイズに答えながら理解する。 ④ パワポを見た感想を交流する。教師が情報の整理を行う。 ⑤ なぜ、緊急事態宣言が取られたのかについて話し合う。	【知】 【思】 【思】	・教師が作成したパワポを基に学習を進める。 ・自分の生活に結び付けて考えられるようにする。 ・前時までの学習の足跡等も活用し、自ら考えられるようにする。	・大型ＴＶ ・前時までの学習物
まとめ１０分	⑥ 「緊急事態ってなに？」というめあてに答える形で、話し合いをしながら今日の学習を白板にまとめる。 ⑦ 学習の計画とＯＰＰシートの記入を行う。 ⑥ 学習の計画を活用し、次時の学習の見通しを持つ	【主】 【主】 【主】	・本時を具体的に振り返り、めあての達成を自分たちで判断する。 ・ＯＰＰシートの記入を通し本時の学習で一番大切なことを確認する。 ・次時だけでなく、単元全体を見通せるようにする。	OPPA シート

個別の評価記録　生活単元学習「コロナニュースをつくろう」

児童名：　６年　Ａ　　担当者名：大嶺　耕一

１．単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・コロナウィルスへの感染の仕方や現在の社会状況について知る。 ・感染予防策の意義を理解している。	・ニュースやネットの情報、教師や友達の意見を参考に自分なりに考えることができる。	・粘り強く人の意見を聞き、理解しようとしている。 ・学習に見通しを持とうとしている。
④個別評価	・コロナウィルスが口、鼻、目から感染することや外出を控える社会状況について知ることができた。 ・感染予防策の必要性を体験的に理解することはできなかった。	・教師と一緒に、自分にとって重要なコロナ対策について番号（ランク付け）をつけることができた。一人で根拠を持って考えることは難しかった。根拠となる部分をしっかり考える機会が少なかった。	・教師や友達の話を聞き、理解しようとすることができた。 ・学習の計画やめあての確認など、毎時間確認することに対しては集中力の欠如が見られた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	○OPPA シートによると、学習前と学習後でコロナ対策に関する表現がより詳しい表現に変容している。コロナ対策が「手を３０秒洗うこと」であるというような知識は増えたし、すぐに想起できるようにもなった。 ○OPPA シートの自己評価欄に「ニュースを作ることが楽しかった」と書いていた。 ●知識は増えたが、知識を体験的に理解したり、生活の中で生かしていこうとするような深い学びにまでは至らなかった。聞くことで知ることが多く体験的活動が少なかったことが要因として考えられる。体験的活動を元に考える授業展開が求められる。		
⑥単元の成果と課題	○ニュース動画の作成は意欲的に行うことができた。また、動画を見ることで自分達の伝える姿を客観的に捉えることができた。他の学習でも動画の活用は効果的と考える。 ●単元計画時にはニュースや動画の視聴によって、知識を獲得していくことを想定していたが、実際には難しく、教師の話から知識を得ていくことが多かった。もっとネット等で調べる活動の経験を積み重ねていく必要がある。 ●「根拠を持って考える」ということが難しかった。教師からの教授が多く、児童同士で対する場面設定が少なかった、もしくは話し合いをするだけの知識や経験が足りなかった。他の単元の中でも、児童同士の話し合いをする時間を増やしていく必要がある。		

本時の個別の観点別目標と観点別評価、OPP シート

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価	OPP シート
			知	思	主		
一	1	・コロナウィルス感染症についての基本情報を調べる。	○		○	・未知の情報を調べる方法として、①ＴＶ②新聞③ネットの 3 つの方法があることを知った。実際に google を使用してニュース記事にたどり着くことができた。が、内容は理解できず。 ・学習の計画を知ることができた。ニュース作成については少し意欲を見せる。	【コロナ対策で大切なこと３つ】てあらい、うがい、ちゃんとあらう
	2	・コロナウィルス感染症対策の方法や意義について調べる。	△		△	・コロナにかかると風邪症状が出る、薬はない、病気の人やお年寄りが感染すると重症化することを、動画を見ることで知った。3 回見ることで少し理解できたか。完全に理解はできていないかも。自分の生活に結び付けて考えることが難しい。発言に自信がない様子。	びょうきがうつる
	3	・コロナウィルス感染症対策の方法や意義について調べる。	○		○	・前時より、説明を聞いてそのことに対してつぶやきをするなど、意欲的に取り組んでいた。答えも質問に正対している。「病気の人にうつさない」と答えられた。	せっけんでてをあらう

	4	・緊急事態宣言や休校措置、経済問題について調べる。	○	○		・45 分間集中していた。緊急事態宣言の３つのお願い①不要不急の外出の自粛、②学校や公園の休業、③生活品の販売の維持について知ることができた。「○○することは不要不急の外出にあたるか？」等の質問に自分で考え、答えることができた。	スーパーやくすりやさんはあけてください
	5	・１０万円の給付金が国民一人一人に配られることを知る。	△		○	・１０万円が国民一人一人に配られることを知った。給付金申請書を実際に書き、申請書を提出しないともらえないことを知った。申請書の記入は教師と一緒に行った。	１０００円のふうとうをかく
二	1	・コロナウィルス感染症によって、自分の生活の変わること、変わらないことについて考え、判断する。	△		△	・新しい生活様式についての動画を自分で探し、視聴し、何が変わるのかを考えた。動画の内容が難しく、理解することが難しかった。「なぜ人混みを避けた方が良いのか」等の問いに答えることは難しかった。動画の視聴だけでなく、教師の説明や解説が必要。	すきまなくマスクをつける
	2	・新しい生活様式について考える。	○			・新しい生活様式についての子供向けの動画（教師がチョイス）を視聴し、コロナ対策としてこれから行っていくことについて「２m離れる」「体調が悪いときは大人の人に教える」等と発表することができた。	おうちのものがなくなったときスーパーに行く
	3	・コロナウィルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。		○	○	・みんなの意見を書いたものを模造紙に並べて、似た内容についてまとめていった。教師の説明を聞きながら「コロナウィルスを身体に入れないためにすること」「健康な身体」「なるべく集まらない」の３つにグルーピングすることができた。	
	4	・コロナウィルス感染症について調べたことや、自分なりに考えたことを模造紙にまとめ上げる。		○	○	・グルーピングした中で、自分にとって「できること・大切だと思うこと」と「できないこと・大切だと思わないこと」について意見を分けた。「手洗いはできるが、マスクをずっとつけることは難しい」等自分の気持ちや考えを素直に表現し、自分にとって大切なコロナ対策ランキングを考えることができた。	
三	1	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	○	○	・教師と一緒に今までの学習を振り返り、、模造紙にまとめたものの中から、ニュースとして伝えたいことを選ぶことができた。	じぶんでかんがえてニュース
	2	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	△	△	・教師の指示に従いコロナニュースの撮影をすることができた。見通しを持てておらず、撮影することでどのようなニュースが作られるのか想像することが難しい。	
	3	・模造紙にまとめ上げたものを基に「コロナニュース」を作る	○	○	○	・撮影した動画を編集ソフトに落とし、ニュース動画として見ることで、見通しをもつことができた。そこから意欲的に撮影に参加することができるようになった。セリフを考えることは難しいが、動きとしてコロナ対策を表現することはできた。	ごはんをよこならびでたべることがたいせつ
	4	・本単元の学習を振り返り、新しくわかったことと、わからなかったことを認識する。 ・自己評価と他者評価を行う。	◎	○	◎	・完成したニュース動画を楽しんでみることができた。学習の振り返りでは、「緊急事態宣言」が「なるべく外に出ないこと」であることや１０万円の給付には申請が必要であることを思い出すことができた。単元全体の感想としては「ニュースづくりが楽しかったです」と記入していた。	【コロナ対策で大切なこと３つ】窓を開けるのが大切、毎日熱を測るのが大切、３０秒手を洗うことが大切

授業振り返りシート　5・6年　生単「コロナ対策を考えよう」 第4時

①　子供が、学習の意義や学習の計画を理解し、見通しを持てているか
（めあてや学習計画の提示の工夫）

	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	①「勉強の計画」を提示することで、「単元の最後にはコロナニュースを作る」等の見通しを持って学習する様子が見られた。	①毎時間「勉強の計画」を使用しているので見通しを持ちやすい。	①継続して、振り返りと見通しを持つ活動を行っていく。
つまずいていた	②「大きなめあて」である「コロナ対策を自分で考えよう」の「自分で考える」ことの大切さを理解することが難しい。	②教師の説明だけで、体験を伴わない活動だから、理解することが難しい。	②「自分で考えることの大切さ」を体験的に学べるようにしていく。本単元でいうと、単元の最後に自分で考え作成した動画を他者から評価されることで、体験的に「自分で考えることの大切さ」を学べるようにしていく。

②　子供が考え、判断する場面があるか
（教わる学習と考える学習のバランスや工夫）

	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	①パワポを使った○×問題に答えることで、どんなことが不要不急にあたるのか、あたらないのか考え、判断していた。	①前時で行った、動画の視聴で情報を取り入れる方法は、動画のスピードと児童の理解のスピードが合わず難しかった。そのため本時ではスピードの調整できるパワポを使用した。	①パワポだと児童が考え、判断するペースに合わせて進めることができた。動画よりも教師が児童に合わせて作成した教材の使用が効果的と考える。また、選択制だと児童は考えやすかったので、今後も授業に取り入れる。
つまずいていた	②「緊急事態宣言って何？」「なぜスーパー等のお店が閉まると困るかわかる？」等の「なぜ」や「何？」系の質問には答えられず。	②「なぜ」「何？」等の深い理解に至っていない。	②学習のまとめの時間に、その日の学習全体を振り返り、知識を関連させながら「なぜ～なの？」「～って何？」等の深い学びにつながる問いかけを行い、答えられるよう授業を展開する。児童の考える時間を確保する。

③　子供が振り返り（評価）を通して学びを意識化しているか
（子供に伝わる評価の工夫）

	子供の様子	なぜ	どうする
学んでいた	①ＯＰＰシート（一番大切なこと）に自分の考えたことを、自分の言葉で書いている（Ｃ児）	①自分の生活に身近なスーパー等の話だったので、自分で考え理解したり、ＯＰＰシートに整理したりすることができていた。	①今後も自分の生活に身近な教材を準備して授業実践をしていく。
つまずいていた	②ＯＰＰシート（一番大切なこと）を書く際に、白板に書かれていることをうつしている。正解を探しているような感じ。（Ａ児、Ｂ児）	②正解を探すのではなく、自分で考えることが目標だということが認識されていない。	②ＯＰＰシートや大きなめあてに関する理解を深めていく必要がある。また、振り返りの際に「今日は○○がわかったね」等と学びの意識化を図る必要もある。

せいかつたんげんがくしゅう　「コロナウィルスのたいさく」
べんきょうのけいかく

参考資料

おおきなめあて
「コロナ たいさく を じぶんで かんがよう」

時間	１、２			３，４			５，６，７，８			９，１０，１１，１２		
めあて	コロナウィルスについて説明ができる。			コロナウィルスによって、社会がどうかわったのか説明できる			これから、どうすればよいのか自分の考えをもつことができる。			自分が知っていることや考えたことについて伝えることができる。		
できたかチェック	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
	❀	❀	○	❀	◎	○	❀	❀	❀	◎	◎	○
新しくわかったこと・大切なこと	・薬がない ・めっちゃ小さい ・病気の人が重症化しやすい	・教室にもコロナがいるかも ・寝るときもコロナに気を付ける ・東京が多い	・危ないから病院でマスクつける ・うつりやすい	・タバコづくりしたい ・なるべく外に出ない ・１０万円、申請書	・薬を作りたい ・マスクを作る ・１０万円、給付金 ・安部総理	・マスクをつける ・手洗いうがい ・給付金申請難しかった。	・窓を開ける ・毎日熱を測る	・３０秒手を洗う ・体調が悪いときは大人の人に言う ・２ｍ離れる	・バスに乗るときはマスクをする ・なるべくお家で食べる ・毎日熱を測る	・模造紙に書くことが難しかった ・きちんと前を見て撮影する	・撮影時はピシっと立ってる方がかっこいい ・「たおそう」がおもしろかった。	・スクールバスに乗ったのが楽しかった。

幼稚部・小１年　遊び「段ボール遊びをしよう」　　【８～９月】

〈単元の概略〉

本単元は、幼稚部１名・小学部１年３名が合同で週に１時間行う。幼稚部在籍が１名であること、全員入学してまだ間もないということから、合同で遊びの指導を進め、幼児児童同士の関わりを増やしたいと考えた。そこで、軽くて安全性があり、積む・蹴る・つぶすなどダイナミックな遊びや、畳む・中に入るなど形状を利用した様々な遊びを通して、楽しく関わり合うことが期待できる『段ボール遊び』を設定した。

授業は、教師が段ボールを使ったいろいろな遊び方を提示して模倣を促すが、子どもたちが主体的に活動できるよう、その提示の順番や制限等は設けずに、子どもたちの反応や遊び方の自由な発想を取り入れながら、柔軟に展開していくことを意識する。また、子どもたちが一緒に段ボールを積む・段ボールの中に入る等、二人以上で活動するような遊び方を促したり、活動場所の縮小、他の遊具の撤去をしたりして、自然と子どもたちが一緒に遊べるような場を作り、ねらいの達成を目指す。

〈授業研究の実際〉

①幼稚部・小学部１年の教師間で話し合い、授業計画を立てた。授業者（CT）が指導案を作成し、それぞれの個別の観点別目標を他の教師（ST）と確認しながら設定した。

②授業実践を行った。毎授業後に話し合い次時の活動や改善点を確認したが、評価記録を毎回書くことは難しく、単元の最後にまとめて記入した。

③授業研究会で「いろいろな形や大きさの段ボールや使用すると更に遊びが広がる」との助言と教材を頂いた。後半の授業で冷蔵庫程の大きさの段ボールを使用することで、児童がすべり台に見立ててダイナミックな遊びを行うことができた。

④単元終了後、個別の評価記録を完成させた。短時間ではあるが活動の様子を撮影したことで振り返ることができ、評価がしやすかった。幼児児童の評価を振り返りながら次の単元へとつなげる。

⑤〈授業研究の成果と課題〉成果→○　課題→●

○学習指導案を書く中で幼児児童に身につけさせたい力や目標達成をするための教師の支援について改めて話すよい機会となり、指導の改善につなげることができた。

○動画を見ることで授業を客観的に知ることができ、また授業中に気付かなかった幼児児童の動きを発見することができた。

●評価記録を毎時間書くことが難しかった。

●友達との関わり遊びが始まったとしても、次の時間も同じようにいくとは限らない発達段階の実態のため、教師が焦らず長い目で友達との関わりを増やしていけるような工夫が必要だと実感した。

遊びの指導　学習指導案

令和２年　８月２７日　３校時　場所：幼稚部教室
幼稚部１人・１年生３人・計４人
指導者　ＣＴ：仲尾次智枝
ＳＴ：高村知子　下地蘭

【身に付けさせたい力】
・人と関わりながら工夫して遊ぶ力
・発想を取り入れて遊ぶ力

１．単元名「段ボール遊びをしよう」

２．単元設定の理由

⑴ 児童観

本学習は、幼稚部５歳児１人、小学部１年生３人の計４人で行う。学部が異なるため、普段の生活は分かれているが、今年度幼稚部在籍が１人のため、同世代の児童との関わりや遊びを広げることをねらい、７月から合同遊びを取り入れている。幼児児童の実態としては、用意された玩具で一人遊びをしたり一定時間みんなと一緒に遊んだりする幼児、友達の名前を呼んで関わろうとする児童、教師や友達の様子を見ながら輪の中で活動する児童、興味が変わりやすく設定されたもので遊び続けることが苦手な児童と実態は様々であるが、４人ともそれぞれ遊ぶ力がある。幼児児童にとっての遊びは、遊ぶこと自体が目的であり、成長や発達にとって重要な体験が多く含まれている。そのため、教師は幼児児童の遊びがより楽しくなるように、また自発的な遊びが活発になるように支援するとともに、遊びを通して友達との関わりを増やしていきたいと考える。

⑵ 教材観

本学習で扱う段ボールは、軽くて紙類としては比較的丈夫で安全性がある素材である。また、幼児児童ともにこれまで大きな段ボールで遊んだ経験があり、慣れ親しんでいる。段ボールの特徴として、つぶしたり、組み立てたりと形状を変化させることができ、積んだり倒したり広げたりして遊ぶことで幼児児童のダイナミックな活動が期待できる。また一人遊びから集団遊びまで幅広い活動を展開させることも可能なため、幼児児童が主体となって活動できると考える。更に大きいものでも幼児児童で持ち運びができる重さであり、友達と一緒に中に入って活動することも可能なため、人との関わりを増やすことも期待できる。そのため本教材を扱うこととする。

⑶ 指導観

まず幼児児童が興味を持って遊ぶことができるように様々な大きさの段ボールを用意する。はじめに教師が段ボールを組み立てながら遊び方を示し、幼児児童の模倣を促す中でいろいろな遊びを経験させる。その際、提示する遊びの順番を固定せず、幼児児童の反応を見ながら柔軟に展開していきたいと考える。また、安全面に配慮しながら、できるだけ幼児児童の遊びを制限せず、自由な発想を引き出すことができるように見守りの態度を心がけていきたい。遊びを深める中で、教師の提示から徐々に幼児児童が主体となる活動へと導いていきたい。更に本学習を通して幼児児童が、自分なりの発想を取り入れながら遊び、遊びを通して教師や友達と関わることを楽しいと感じてもらうことを願い、本学習を設定する。

３．単元目標

（１）段ボールを使っていろいろな遊びを創造することができる。
（２）教師や友達と夢中になって段ボールで遊ぶことができる。

４．単元の観点別目標

⑴段ボールを工夫して高く積んだり協力して倒したりしていろいろな遊びがあることを知る。【知・技】
⑵段ボールを使って自由に発想しながら遊ぶことができる。【思・判・表】
⑶段ボール遊びを通して教師や友達と一緒に関わりながら遊びを楽しむ。【主】

５．学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	段ボールを使って教師と一緒にいろいろな遊びをしよう	○	○	○
二	1	段ボールを使って教師や友達と一緒に遊ぼう①	○	○	○
	2	段ボールを使って教師や友達と一緒に遊ぼう②	○	○	○
三	1	段ボールを使ってみんなで好きな遊びを楽しもう	○	○	○

６．単元の個別目標

観点／氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・段ボールを使ったいろいろな遊びを経験することができる。	・段ボールを使って自分が楽しめる遊びをいくつか発想することができる。	・教師や友達と関わりながら段ボール遊びを楽しむことができる。
B	・段ボールを使ったいろいろな遊びを経験することができる。	・段ボールの様々な形状を利用して、遊びを発想することができる。	・教師や友達と関わりながら段ボール遊びを楽しむことができる。
C	・段ボールを使ったいろいろな遊びを経験することができる。	・段ボールを使った遊びを見て、自分が好きな遊びを選び、参加することができる。	・教師や友達と関わりながら段ボール遊びを楽しむことができる。
D	・段ボールを使ったいろいろな遊びを経験することができる。	・教師が提案した遊びを工夫したり、段ボールを使っていくつか遊びを発想したりして楽しむことができる。	・お友達に自ら関わろうとしながら、段ボール遊びを楽しむことができる。

７．本時の学習（ 二次の１時)

(1) 本時の目標

①好きな段ボール遊びを深める。【思・判・表】【主】

②気に入った１つの遊びをみんなで遊び尽くすことができる。【思・判・表】【主】

(2) 本時の個別目標

観点／氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A		・自由に発想したり教師や友達の遊びを真似したりして遊ぶことができる。	・教師や友達と一緒に段ボール遊びを楽しむことができる。
B		・いろいろな段ボール遊びから好きな遊びを見つけ、工夫しながら遊ぶことができる。	・教師と友達が遊んでいる場所で自ら遊ぶことができる。
C		・教師や友達の遊びを真似して、好きな遊び方を見つけることができる。	・教師や友達と一緒に段ボール遊びを楽しむことができる。
D		・いろいろな段ボール遊びから好きな遊びを見つけ、工夫しながら遊ぶことができる。	・教師や友達に自ら関わりながら、一緒に段ボール遊びを楽しむことができる。

(3)本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入10分	1、呼名 2、はじめのあいさつ 3、活動内容の確認	【思・判・表】 【主】	・一緒に活動する友達を意識させるために一人一人名前を呼ぶ。 ・中に段ボールを入れた段ボールを一人に開けさせ、箱の中に箱を入れる遊び方のエッセンスを取り入れる。 ・実物を見せながら段ボールで遊ぶことを伝える。 めあて：段ボールで遊ぼう	・中に段ボールを入れた段ボール
展開30分	4、段ボールで遊ぼう ○段ボールを積んでみよう・倒してみよう ①段ボール積み ②段ボール倒し ・手で押す ・足で蹴る ・箱を蹴ってぶつける ・段ボールロケットで倒す（箱に入って教師に押してもらう）など ○二人で段ボールに入り、積んだ段ボールを倒してみよう ○電車ごっこをしよう ・段ボールを集めよう ・段ボールの周りを歩こう ○片づけをする ・ケースの中に段ボールを入れる。	【知・技】 【思・判・表】 【主】 【知・技】 【思・判・表】 【主】 【知・技】 【思・判・表】 【主】 【知・技】 【思・判・表】 【主】	※活動内容の順番は固定せず、幼児児童の反応や動きによって変える。そのため実施しない活動がある場合がある。 ・大小それぞれの段ボールを自由に積ませダイナミックな活動を促す。 ・積む、倒す、組み立てるなど幼児児童の自由な発想を随時引き出せるように教師が見守りの態度を心がける。 ・自由な発想で遊んでいる幼児児童がいる場合、一度遊びを止めて、みんなに紹介する。 ・一人で他の活動をしている幼児児童がいる場合、段ボールを渡したり、名前を呼んだりして友達との関わりを増やすようにする。 ・倒すときに「３・２・１」とカウントダウンをしてみんなで一緒に活動できるようにする。 ・段ボールに入ったまま、積み上げられた段ボールを倒す手本を見せる。 ・人との関わりを増やすため教師や友達と箱に二人で入らせる。 ・一度遊びを止めて注目させ、テープで囲まれた枠の中に段ボールを集めるように声をかける。 ・教師が箱の中に入りテープの上を歩く手本を見せる。 ・友達との関わりを増やすために、段ボールに二人入らせる。 ・「よーいスタート」の合図で片づけを遊びの延長で行う。	・いろいろな大きさの段ボール ・大きめの段ボール ・テープ ・両端に穴を開けた段ボール ・すずらんテープ ・ガムテープ ・片づけ用の箱
まとめ5分	5、ふりかえり ・今日行った活動を発表する。 6、おわりのあいさつ	【思・判・表】	・今日の活動を共有させるために遊びを再現させる。	

８．本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A		◎自由に発想して段ボール遊びを行うことができた。 ○教師や友達の遊びを真似して段ボール遊びを行うことができた。 △教師に促されて段ボール遊びを行った。	◎進んで教師や友達と一緒に段ボール遊びを楽しむことができた。 ○教師の促しを受けて教師や友達と段ボールで遊ぶことができた。 △教師や友達と段ボール遊びを行わなかった。
B		◎好きな段ボールでの遊び方を見つけ、工夫して遊ぶことができる。 ○教師や友達が行う遊びを真似て、遊ぶことができた。 △教師に促されて段ボール遊びを行った。	◎教師と友達が遊んでいる輪の中に自ら入り、皆と一緒に遊ぶことができた。 ○教師と友達が遊んでいる場所で自ら遊ぶことができる。 △別の場所で遊ぼうとした。
C		◎様々な遊び方に自ら挑戦しながら、好きな遊び方で何度も遊ぶことができる。 ○教師や友達の遊びを真似して、好きな遊び方を見つけることができる。 △教師に促されて段ボール遊びを行った。	◎進んで教師や友達と一緒に段ボール遊びを楽しむことができた。 ○教師の促しを受けて教師や友達と段ボールで遊ぶことができた。 △教師や友達と段ボール遊びを行わなかった。
D		◎好きな段ボールでの遊び方を見つけ、工夫して遊ぶことができる。 ○教師や友達が行う遊びを真似て、遊ぶことができた。 △教師に促されて段ボール遊びを行った。	◎進んで教師や友達と一緒に段ボール遊びを楽しむことができた。 ○教師の促しを受けて教師や友達と段ボールで遊ぶことができた。 △教師や友達と段ボール遊びを行わなかった。

９．本時の評価基準

（1）観点を踏まえた授業展開の工夫がされているか。

個別の評価記録　あそびの指導「段ボール遊びをしよう」

幼児名：幼稚部　　Ａ　　担当者名：仲尾次 智枝

１．単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個別目標	段ボールを使ったいろいろな遊びを経験することができる。	段ボールを使って自分が楽しめる遊びをいくつか発想することができる。	教師や友達と関わりながら段ボール遊びを楽しむことができる。
④個別評価	いきいきと目を輝かせながら段ボールの中を覗いたり、中に入ったり蹴ったり投げたり積んだりする等いろいろな遊びを行うことができた。	段ボールの中に座り、後ろから押してもらう遊びを気に入り、教師に押すように要求する姿が多く見られた。積んだ段ボールを手で押したり足で蹴ったり新聞紙で叩いたりする等、いろいろな方法で倒す遊びを発想し、笑顔を見せながら遊ぶことができた。	教師の手をとり段ボールの中に一緒に入るように誘ったり、友達と段ボールを取り合ったりして他者と関わりながら時間いっぱい遊ぶことができた。段ボールが倒れる瞬間に教師と目を合わせ大きな声を出して楽しむ様子が見られた。
④評定	◎	◎	◎
⑤学習の成果と課題	○畳まれた段ボールを広げたり積んだりしていろいろな遊びを経験することができた。 ○教師や友達の様子を真似ながら活動する中で、好きな段ボール遊びを見つけ、自由に発想して遊ぶことができた。 ○回数を重ねるごとに教師だけでなく友達と関わりながら遊ぶことが増えた。		
⑥単元の成果と課題	○幼稚部と小学部の幼児児童が定期的に関わることができ、遊びの時間以外でもお互いを気にして廊下ですれ違う際に合図をしたり、一緒に給食を食べたいと要求したりする場面が見られた。 ○軽い・立体や平面に変化する・中に入ることができる等、段ボールの性質や大きさを利用して、遊びを楽しむことができた。 ○教室内にある遊具の撤去や遊ぶ場所を仕切ることで、全員が段ボールに注目し同じ場所・同じ教材で遊ぶことができた。 ○教師が遊び方の説明を短くし、見守りの姿勢を心がけることで、教師や友達の活動を見て真似たり、自分で遊び方を考えてやってみたりすることができた。 ●幼児児童１人では運べない大きさの段ボールも用意すると、さらに教師あるいは幼児児童同士が関わることができたと考える。 ●遊びの後半になると集中が切れて他の玩具に興味が移ることがあった。間延びしないように活動を進めたり、ボール等他の素材を組み合わせたりする工夫が必要と感じた。		

２．本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	段ボールを使って教師と一緒にいろいろな遊びをする。	○	○	○	段ボールの中に座り、教師に後ろから押してもらい笑顔を見せる。また高く積まれた段ボールを指さして段ボールが倒れる様子を見て楽しむ。
二	1	段ボールを使って教師や友達と一緒に遊ぶ。	◎	◎	◎	教師と一緒に段ボールの中に入って歩く。友達と段ボールを取り合い、積んだ段ボールを手で押して倒す。
	2	段ボールを使って教師や友達と一緒に遊ぶ。	◎	◎	◎	新聞紙の剣で段ボールをたたく。積み上げた段ボールを倒す際、「３・２・１」のカウントダウンに合わせて手で倒すことが数回あった。
三	1	段ボールを使ってみんなで好きな遊びを楽しむ。	◎	◎	◎	積まれた段ボールをめがけボールを投げて倒す。大きな段ボールの上に乗り、すべり台のようにして遊ぶ。友達の様子を真似て一緒に横になり、大きな段ボールの上から転がしたボールが体に当たることを楽しむ。

個別の評価記録　遊びの指導「段ボール遊びをしよう」

児童名：１年　　Ｂ　　担当者名：下地　蘭

１．単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	段ボールを使った、いろいろな遊びを経験することができる。	段ボールの様々な形状を利用して、遊びを発想することができる。	教師や友達と関わりながら、段ボール遊びを楽しむことができる。
④個別評価	段ボールを目線より高い位置まで積んだり、何個も並べてその上を島渡りのように歩くことができた。	畳まれた段ボールの上に乗ってソリのように進む、平たく長い段ボールを大きい四角の段ボールに乗せて、滑り台として遊ぶという遊び方を発想することができた。	・楽しい・好きと思った遊びを自らすすんで繰り返すことができた。 ・教師や友達から段ボールを受け取ったり、島渡りで落ちないように教師の手を繋いで支援を要求したりすることができた。 ・本児が教師や友達の手を取り、相手同士で握手をさせたり、友達に握手をする場面がみられた。
④評定	◎	◎	◎
⑤学習の成果と課題	○積む・乗るなど、意欲的に段ボールで遊ぶことができた。 ○段ボールを使った遊び方を考え、創造力を発揮することができた。 ○段ボールの受け渡し等で、自ら教師や友達に関わることができた。		
⑥単元の成果と課題	幼稚部幼児と同じ		

２．本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	段ボールを使って遊ぶことができる。	○	○	◎	教師が段ボールを積む様子を見て、それを好み、積極的に遊ぶことができた。
二	1	好きな段ボール遊びを見つけたり、遊び方を考えることができる。	◎	◎	◎	段ボール積みを高く積もうとしたり、段ボールをソリに見立てたりして遊ぶことができた。
	2	段ボールを使って教師や友達がいる場所で遊ぶことができる。			◎	遊ぶ場所を縮小することで、他の児童と同じ場所で遊ぶ様子がみられた。
三	1	段ボールを使って、教師や友達と一緒に遊ぶことができる。			◎	友達が段ボールを積んでいると、自らそれに参加することができた。

３年　生活単元学習「作ってみよう！～おいしいおにぎりを作ろう～」　　【８～１０月】

〈題材の概略〉

本学級は３年生の一般学級の男子１名、女子２名、重複学級の女子１名、計４名の児童で構成されており、教師２名と介助者１名のティームティーチング体制で指導にあたっている。昨年度に続き、日頃の学習、調理学習、栽培学習など様々な活動を関連付けて取り組む中で、身近な生活の活動について繰り返し体験し、自分のできることを増やしていこうと取り組んでいる。

本題材では、「おにぎり作り」を通してなるべく活動の見通しが持て自分から取り組むことができるよう、導入曲や視覚的教材、実際のモデルを示しながら活動に取り組んでいく。活動を繰り返し行い、振り返りをすることで「おにぎり作り」への見通しが持てたり、児童自ら多様な方法で感想発表したりできるように展開していく。また保護者からの協力も得て、児童が好きなおにぎりの具を一緒に考えてもらい、児童オリジナルのおにぎりを完成させ、いつもお世話になっている先生に美味しく食べてもらう経験をすることで、親子で達成感を感じたり、家庭でもそのおにぎり作りに取り組むことができればと考える。更に「おにぎり作り」では、お米を研ぐことから学習することで家庭でのお手伝いの一環として取り組めるようにと設定している。児童がお米を研ぐ活動を繰り返し学習していくことで、将来的には家庭でのお手伝いの一つへとつながっていくことを期待し授業を展開していく。

〈授業研究の実際〉

①学級にて、年間を通して調理学習への取り組みについて確認。衛生面や安全面などの配慮事項について他の学習ともつなげながら指導を行う。それぞれの個別の観点別目標を確認しながら指導案の作成を行う。

②１回目の授業後、活動の見通しを持てるように手順の確認や手順表の作成を行う。児童の実際の活動の様子を確認しながら授業の流れを確認し、指導案へ反映させる。

③２回目の研究授業にて手順表を確認しながら自分で考えて活動できるように支援していく。また授業の最後に感想発表を行い、多様な方法で表現することができるよう教師も支援する。

④研究授業後、見学者から頂いた助言を活かしながら、評価する際の教師の視点を見直したり感想発表について今後行う振り返り学習をどう行っていくか検討。

⑤〈授業研究の成果と課題〉成果→○　課題→●

○手順表を作成したことによって、目で見て確認し活動を進めることができた。

○２回目の活動ということもあり、次の活動の見通しをもち、自分から進んで行動することができた。

○後日行った振り返りの学習では、自分の活動の様子や感想発表の部分で児童も教師も振り返ることができ、今後の単元の展開にとても役立った。

●多様な表現方法で感想発表する際の教師の支援の在り方。見本を示す、言葉だけでなく、ジェスチャーや選択肢を設ける等、今後検討が必要。

●児童から保護者にも作ってあげたいという思いを叶えるために、どのような家庭との連携が考えられるか。家庭へ汎化するためにどのような工夫を行うか。

生活単元学習指導案

令和２年８月 25 日火曜日３校時　場所：小学部３年教室
小学部　第３学年　男子１名　女子３名　計４名
指導者　T1：與那原　江里子　T2：與那覇　和八

【育てたい資質・能力】
・具体的な活動や体験を通し、調理する楽しさを広げ、見通しを持って活動することができる。

１．単元名「作ってみよう！～おいしいおにぎりを作ろう～」

２．単元設定の理由

⑴ 児童観

本学級は３年生の一般学級の男子１名，女子２名，重複学級の女子１名，計４名の児童で構成されており、教師２名と介助者１名のティームティーチング体制で指導にあたっている。児童の実態としては、指差しや単語、簡単なやりとりで自分の要求を伝えることができる。しかし、場面に合った関わり方が難しいことも多く、教師と一緒に確認しながらコミュニケーションの取り方を学習している。毎日繰り返し取り組んでいる活動においては流れも把握し、見通しを持って活動することもできるが、その他の場面や初めての活動には見通しを持ったり、自分の意見を考え発表したりする事は難しい。そのため授業に取り組む際は、教師の指導の工夫が必要である。

生活経験においては、それぞれ家庭や放課後等デイサービスで簡単な調理の経験を積んできてはいるものの、まだ支援を必要とすることが多く、見通しを持って自分で活動するまでには至っていない。昨年度に続き、日頃の学習、調理学習、栽培学習など様々な活動を関連付けて取り組む中で、身近な生活の活動について繰り返し体験し、自分のできることを増やしていこうと取り組んでいる。

⑵ 単元観

調理学習においては食に偏りがある児童も含め、全員とても意欲的である。今学期も収穫したきゅうりを使って調理したり、誕生会では自分たちでホットケーキを作りお祝いをしたりと昨年同様、調理学習単独ではなく、色々な学習につなげて進めている。合わせて、普段の学習の中から感染症予防の一環として指導を行っている「手洗い」に関しても調理学習の衛生面につなげて繰り返し指導し確認を行っている。

今回はその流れを受け、また家庭での「お手伝い」という視点も取り入れつつ、児童が安全にすすんで手伝いに取り組むことができる内容ということで「おにぎり作り」を単元として取り上げた。道具の名前や安全な使い方、作業の手順を教師と一緒に確認しながら、見通しを持って活動に取り組むことができるよう繰り返し学習していく。更に調理学習を行った後は振り返りの授業を行い、次時への期待感を高め、自分で作ってみたいおにぎりの具を考えてみたり、誰に作ってあげたいのかを考えてみたりと単元自体の見通しが持てるよう計画する。調理学習に取り組みながら、自分で考え工夫し作った物を美味しいと言って食べてもらう経験を重ねることで、人に喜んでもらうことや調理する楽しさを更に味合わせたい。また調理学習の際に自分の感想を伝える機会を設け、児童の発言から「おにぎり作り」に対する気持ちの変化を感じることができるように場面を設定していく。

⑶ 指導観

「おにぎり作り」は児童にもお弁当等で馴染みがあり、型を用いることで作業に取り組みやすく、具を変えることで発展しやすい調理である。なるべく活動の見通しが持て自分から取り組むことができるよう、導入曲や視覚的教材、実際のモデルを示しながら活動に取り組んでいく。また保護者からの協力も得て、児童が好きなおにぎりの具を一緒に考えてもらい、児童オリジナルのおにぎりを完成させ、いつもお世話になっている先生に美味しく食べてもらう経験をすることで、親子で達成感を感じたり、家庭でもそのおにぎり作りに取り組むことができればと考える。更に「おにぎり作り」では、お米を研ぐことから学習することで家庭でのお手伝いの一環として取り組めるようにと設定している。児童がお米を研ぐ活動を繰り返し学習していくことで、将来的には家庭でのお手伝いの一つへとつながっていくことを期待する。

３．単元目標

⑴ 見通しを持っておにぎり作りに取り組むことができる。
⑵ おにぎり作りを通して、自分で考えたり選んだり、感想を発表したりすることができる。

４．単元の観点別目標（評価規準）

⑴ おにぎり作りに必要な身支度を調えることができる【知・技】
⑵ 考えたり感じたりしたことを多様な方法で表現することができる【思・判・表】
⑶ 見通しを持って活動することができる【主体】

５．学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	おにぎりを作ってみよう～型を使って～①	○		
	2	おにぎりを作ってみよう～型を使って～②	○	○	○
二	1	振り返り、次はどんな作り方をしようかな？		○	○
	2	おにぎりを作ってみよう～好きなふりかけを使って～	○	○	○
	3	おにぎりを作ってみよう～好きな具を入れて～	○	○	○
三	1	振り返り、誰に作ってあげようかな？		○	○
	2	おにぎりを作ってみよう～どうぞ召し上がれ～	○	○	○

６．単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・おにぎり作りの前の身支度を教師と一緒に確認しながら、自分で調えることができる。	・おにぎり作りを通して感じたことを多様な方法で表現することができる。	・手順表を確認しながら、活動に参加することできる。 ・自分で作ったおにぎりを食べることができる。
B	・清潔面を意識して、おにぎり作りの前にはどんな身支度があるのか分かり、自分で調えて待つことができる。	・おにぎり作りを通して感じたこと・考えたことを多様な方法で表現することができる。	・見通しを持ち、進んで活動できる。
C	・身支度に必要なことを自分で考えて、発言できる。 ・教師と一緒に身支度を整えることができる。	・自分で考えたり、選択したりすることができる。 ・教師と一緒に自分の感想を発表することができる。	・見通しを持ち、自分で活動をしようとすることができる。
D	・教師と一緒に身支度を整えることができる。 ・マスクを着用することができる。	・教師と一緒に身振りなどを用いて感想を発表することができる。	・自分から道具を持ち、手元を見て教師と一緒に活動することができる。

７．本時の学習（ 二の２時 ）

(1) 本時の目標

①手洗い・エプロン・マスク等、清潔面を意識することができる。

②見通しを持っておにぎり作りに取り組む事ができる。

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・必要に応じて、教師と確認しながら手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。	・教師と一緒におにぎり作りの感想を発表することができる。	・その場から離れず、最後まで皆と一緒に活動することができる。 ・自分で作ったおにぎりを食べることができる。
B	・清潔面を意識して、自分で手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。	・おにぎり作りの感想を自分の言葉で発表することができる。	・見通しを持ち、進んで活動できる。
C	・教師と一緒に確認しながら、自分で身支度を整えることができる。	・おにぎり作りの感想を教師と確認しながら、自分の言葉で発表することができる。	・教師と一緒に手順表を確認しながら、自分で活動を進めることができる。
D	・教師と一緒に身支度を整えることができる。 ・おにぎりを作る際は、マスクを着用することができる。	・教師と一緒に身振りでおにぎりの味を表現することができる。	・自分から道具を持ち、手元を見て教師と一緒に活動することができる。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	児童の学習活動（□の中）と個別の目標（☆）				備考
				A	B	C	D	
導入7分	1　はじめのあいさつ 2　先生のおはなし ①何をつくるのかな？ ②手順の確認 ③めあて ④身支度の確認	知・技	・姿勢を正すよう促す。 ・CT の方を向くように促す。 ・手順は写真やイラストを使って確認する。 ・めあてを皆で読み上げ確認する。	姿勢を正して、始めの挨拶をする。 ・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。 今日の学習内容を聞く。 ・めあてを読みあげることができる。 ・手順を文字で確認することができる。	・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。 ・めあてを教師と一緒に読むことができる。 ・身支度で必要なものを言葉で確認することができる。	・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。 ・めあてを教師と一緒に読むことができる。 ・身支度で必要なものを言葉で確認することができる。	・姿勢を正し頭を下げて挨拶ができる。 ・めあてを教師と一緒に確認する。 ・教師の示すモデルを見て模倣することができる。	
展開33分	3　みじたく ・手を洗って清潔にし、エプロンとマスクを着用する 4　おにぎり作り ①型にご飯を入れる ②型の蓋をしめ、おす ③ラップのひいた皿におにぎりを出す ④ふりかけをかける ⑤ラップで包んで、にぎる ⑥できあがり	主体 知・技主体	・手洗いの歌を歌いながら洗い残しがないようにし、タオルで拭く。 ・教師は炊飯器からご飯をボウルによそう。 ・必要に応じて教師の支援を行う。	手を洗い，エプロンとマスクを着用する。 ・必要に応じて、教師と確認しながら身支度を調えることができる。 一人ひとり前に出て、おにぎりを作る。 ・なるべく自分で作業を行うことができる。 ・手順が分からなくなったら、教師と一緒に手順表を確認する。 ・必要に応じて、教師と一緒にラップで包むことができる 自分の順番が来るまで、静かに待つ。 ・マスクや口などを触らず、衛生面に気を付けて待つことができる。	・自分で身支度を調えることができる。 ・なるべく自分で作業を行うことができる。 ・手順が分からなくなったら、手順表を見るように促す。 ・マスクや髪などを触らず、衛生面に気を付けて待つことができる。	・必要に応じて、教師と一緒に身支度を調えることができる。 ・なるべく自分で作業を行うことができる。 ・手順が分からなくなったら、教師と一緒に手順表を確認する。 ・必要に応じて、教師と一緒にラップで包むことができる。 ・マスクや口などを触らず、衛生面に気を付けて待つことができる。	・教師と一緒に身支度を調えることができる。 ・教師が手添えしながら一緒にしゃもじを持ち、ご飯を型に入れることができる。。 ・教師と一緒に、マスクを着用したままおにぎりを完成することができる。 ・順番前に手を洗い、、直前にマスクを装着することができる。	

	6　試食		・試食の際は同時に水分補給も行う。	試食をする。				
				・進んでおにぎりを食べることができる。	・ラップを外し、一口の量に気を付けながら食べることができる。	・ラップを外し、自分で食べることができる。	・お友達と一緒に試食をすることができる。	
まとめ5分	7　感想発表	思・判・表	・なるべく自分の言葉で感想を発表できるように支援する。	感想を発表する。				
				・教師と一緒に感想を発表することができる。	・自分の言葉で発表することができる。	・自分の言葉で発表することができる。不足の部分は教師が補う。	・教師と一緒に身振りで感想を発表することができる。	
	8　次時の予告と片付けについて確認		・次時の予告と片づけについての確認を行う。	次時への予告と片づけの確認をする。				
				・教師の顔を見て話を聞くことができる。	・教師の顔を見て話を聞き、片付けの確認ができる。	・教師の顔を見て話を聞き、片付けの確認ができる。	・教師と一緒に片付けの内容を確認することができる。	
	9　おわりのあいさつ		・姿勢を正すよう促す。	姿勢を正して、終わりの挨拶をする。				
				・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。	・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。	・姿勢を正して声を出して挨拶ができる。	・姿勢を正し頭を下げて挨拶ができる。	

８．本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎自分で手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。 ○必要に応じて、教師と確認しながら手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。 △教師と一緒に手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。	◎自分の言葉で発表することができる。 ○教師と一緒に発表することができる。 △教師の言葉を繰り返して発表することができる。	◎自ら手順表を確認し、活動に参加することできる。 ○その場から離れず、皆と一緒に活動に参加することができる。 △教師に促され、活動に参加することができる。
B	◎清潔面を意識して、自分で手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。 ○自分で手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。 △教師と一緒に手洗い、エプロン・マスクを着用することができる。	◎積極的に挙手して、自分の言葉で発表することができる。 ○教師の支援を受けながら発表することができる。 △教師の質問に答えながら感想を発表することができる。	◎次の活動に自分から移ることができる。 ○教師と一緒に確認して、次の活動に移ることができる。 △教師が促し、次の活動に移る。
C	◎一人で身支度を整えることができる。 ○教師と一緒に確認しながら自分で身支度を整えることができる。 △教師と一緒にすべての身支度を整えることができる。	◎自分でおにぎり作りの感想を発表することができる。 ○おにぎり作りの感想を教師と確認しながら、自分の言葉で発表することができる。 △教師の質問に答えながら感想を発表することができる。	◎自分で手順表を確認し、活動を進めることができる。 ○教師と一緒に手順表を確認しながら、自分で活動を進めることができる。 △教師が手順表を説明しながら活動を行うことができる。
D	◎おにぎりを作る際は、マスクを着用することができる。 ○自分からマスクを着用しようとすることができる。 △マスクをすぐ外してしまう。	◎自分から身振りでおにぎりの味を伝えることができる。 ○教師と一緒に身振りでおにぎりの味を表現することができる。 △教師が手添えで身振りを確認しながらおにぎりの味を確認することができる。	◎自分から道具を持ち、最後まで手元を見て活動することができる。 ○自分から道具を持ち、手元を見て教師と一緒に活動することができる。 △教師の手添えで道具を持ち、活動することができる。

９．授業の評価のポイント

(1)観点を意識した授業展開が行われていたか。
(2)本時の評価基準は適切だったか。

個別の評価記録　生活単元学習「作ってみよう！～おいしいおにぎりを作ろう～」

児童名：３年　Ｂ　　担当者名：與那原江里子

１．単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・清潔面を意識して、おにぎり作りの前にはどんな身支度があるのか分かり、自分で調えて待つことができる。	・おにぎり作りを通して感じたこと・考えたことを多様な方法で表現することができる。	・見通しを持ち、進んで活動できる。
④個別評価	・調理前に何を準備するのか自分で考えて手洗い、エプロン・マスクを着用することができた。	・おにぎり作りの感想を自分の言葉で発表することができる。	・手が止まっても自分で手順表を確認しながら次の活動の見通しを持つことができた。
④評定	◎	○	◎
⑤学習の成果と課題	成果：おにぎり作りの手順や調理前の準備などが分かり、自分から積極的に活動に取り組むことができた。 課題：次時への見通しを持つために、どのように提示すると理解しやすいのか。感想を発表するときの表現について幅を広げるにはどうしたらよいのか。		
⑥単元の成果と課題	成果：調理学習と振り返り学習を交互に行うことで次時への見通しを持ち、単元を通しておにぎり作りをより意識することができた。また自分の家からおにぎりの材料を準備して持ってきたり、自分で作ったおにぎりを食べてもらい喜んだりと様々な活動へと広げることができた。 課題：学びの振り返りをする際に、どうアウトプットさせて評価するか。発表の工夫や様々な言葉で表現するために言語活動を充実させる。		

２．本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定 知	③評定 思	③評定 主	③観点別評価
一	1	おにぎり作りの活動内容を知ることができる。	○			・教師の手本を見ながら、自分でおにぎり作りに取り組むことができた。
	2	調理学習の事前準備やおにぎり作りの活動について見通しを持つことができる。	○	○	○	・授業の活動の流れが分かり調理前の準備について発言することができた。
二	1	振り返ることで、おにぎり作りの次の見通しを持つことができる。		○	○	・授業の振り返りと次のおにぎり作りで使用するふりかけを選ぶことで、次時の見通しをもつことができた。
	2	自分で選んだふりかけを確認し、それを使っておにぎりを作ることができる。	○	○	○	・自分の選んだふりかけをしっかり覚えており、進んでおにぎり作りに取り組むことができた。
	3	家族と一緒に準備した材料でおにぎりを作ることができる。	○	○	○	・家から持参したふりかけを楽しみに、積極的におにぎり作りを行うことができた。
三	1	・授業の振り返りを行い、次時に誰にあげるか自分で考えて決めることができる。		○	○	・自分で作ったおにぎりの味を思い出し次時にあげる先生を考えて決めることができた。
	2	プレゼントする先生のために、おにぎりを作ることができる。	○	○	○	・作るおにぎりやプレゼントする相手をしっかり覚えており、活動することができた。

授業振り返りシート　3年　生単「作ってみよう！～おいしいおにぎりを作ろう～」 第2時

① 子どもが、学習の意義や学習の計画を理解し、見通しを持てているか
（めあてや学習計画の提示の工夫）

	子どもの様子	なぜ	どうする
学んでいた	①2回目ということもあり、おにぎり作りの手順をある程度覚えており、積極的に活動することができた。	①手順表を説明しながらホワイトボードに張り、実際におにぎり作りの手順を実演することで再度確認することができた。	①継続しておにぎり作りを行い、一人でもおにぎりが作れるように活動に取り組んでいく。
つまずいていた	②「またおにぎりを作る」という簡単な見通しは持てていたが、どんなおにぎりを作るなどの学習の意義までは理解できていなかった。	②次時への見通しを口頭だけで簡単に説明していた。	②視覚的にも分かりやすい計画表の作成を行い、次時への見通しが詳しく持てるようにする。

② 子どもが考え、判断する場面があるか
（教わる学習と考える学習のバランスや工夫）

	子どもの様子	なぜ	どうする
学んでいた	①手順が止まった時に、なるべく自分で考えていた。	①教師が支援するのではなく、手順表を確認するよう促すことで、自分で考えて次へ進むことができた。	①手順表をホワイトボードに掲示しており、作業しながら確認するには振り返ることが必要なので、手順表を机にはり手元で確認しながら自分で進めることができるように配慮する。
つまずいていた	②作業中にご飯を床や机の上にこぼしてしまった時に、活動が止まってしまった。	②ご飯をこぼした時の対応について確認していなかった。	②手順表を確認する際に「もしご飯をこぼしてしまったら…。」ともしもの時を仮定して確認を行うようにし、落としてしまったものに関しては衛生面上使用しないことを確認する。

③ 子どもが振り返り（評価）を通して学びを意識化しているか
（子どもに伝わる評価の工夫）

	子どもの様子	なぜ	どうする
学んでいた	①子どもの発言 「おにぎりを作って食べました。美味しかったです。」 「パパ。」、「のりたまおかわりちょーだい。」	①この授業のみの見通しの中で、児童が考えて発表していた。	①今後は単元全体の見通しを持たせ、発言の内容に幅が出るようにしたい。 また、発言する前に、教師がお手本を見せることも有効だと感じた。
つまずいていた	②	②	②

４年　遊びの指導「ころころキャッチゲーム」　　【８月】

〈単元の概略〉

本授業の対象である児童は、一般３名、重複１名（男子２名、女子２名）の計４名である。今年度から机上での学習に取り組む時間が増えてきているが、よそ見が多い、なぞりがうまくできない等の課題がみられる。また、自由遊びの時間等に物の数を数えようとする姿は見られるものの、数の概念がまだ身についておらず指導が必要である。

そこで、児童全員が楽しんで遊ぶことができるボール遊びを行いながら児童の課題である数の概念、数唱、数量の比較等を身につけることができるようにころころキャッチゲームをする。また、ころころキャッチゲームは、机の上で転がるボールを机から落ちると同時に容器でキャッチするゲームである。転がってくるボールをよく見て、目で追い、キャッチすることで追従性眼球運動や目と手の協応を身につけることができる。【知・技】友だち同士で良いところを真似たり教えあったりすることで友達同士の関わり等も身に付けることができる。【思・判・表】

単元の後半では児童のみでころころキャッチゲームに取り組むようにして、児童同士での遊びが広がるようになってほしい。【主】

〈授業研究の実際〉

① 遊びの中で友達同士でお互いを観察して真似したり、アドバイスしたりする【思・判・表】等をすることで数の概念、数唱等を楽しく学ぶことができるような授業作りを行った。単元の最後に児童のみでのころころキャッチゲームを設定することで友達同士の関わりを増やしたり積極的に学習に取り組む事ができるようにする。【主】

② 授業実践を行い、毎授業後には教師同士で話し合い、児童の様子の確認を行った。児童の様子を確認しながら児童の実態に合った教具の作成や授業改善を行った。

③ 授業研究会では授業の後半での振り返りについて、もっと振り返りを充実させる（カードや教具の活用）ように助言を頂き、教師の言葉かけや授業改善を行った。

④ 本単元を通して繰り返し授業を行っていくうちに上手にキャッチしたり、数えたりすることができていた。振り返りの時に児童が今日の学習を主体的に分かりやすく振り返ることができるような教具が必要。

⑤〈授業研究の成果と課題〉成果→○　課題→●

○毎授業後に教師同士で話し合うことで児童の課題についての理解を深め、児童に合った授業、教具を作ることができた。

○授業研究会を通して他学部の職員に多角的な視点から助言をもらうことで、より良い授業を考えることができた。

●振り返りの時に児童が主体的に振り返ることができるようにしたい。

遊びの指導　学習指導案

令和２年８月　28 日　金曜日　３校時　場所：４年教室
小学部　　男子２人　女子２人　計４人
指導者　CT：大道瑛司　　ST：川満範子

【育てたい資質・能力】
・ゲームを通して数の概念を理解し、自分や友達が取れたボールの数を数えることができる。

１．単元名「ころころキャッチゲーム」

２．単元設定の理由

(1) 児童観

本授業の対象である児童は、一般３名、重複１名（男子２名、女子２名）の計４名である。遊びに関して、自分からやりたい遊びを選んで楽しむ様子が見られ、その時に児童同士で関りながら遊ぶことができるようになってきている。また、教師が提示した遊びにも自分から参加して一緒に遊び、楽しむ様子が見られた。学習面においては、今年度から机上での学習に取り組む時間が増えてきており、平仮名の模写やマッチング手指を使った活動（アイロンビーズ、洗濯ばさみ等）を行っている。その時にはよそ見が多い、なぞりがうまくできない等の課題がみられる。算数に関しての実態は、１～20 までの数字がわかる児童が１人、１～５までの数唱ができる児童が１人、１～５までのマッチングができる児童が２人と実態は様々である。数の概念に関してはまだ身についておらず指導が必要である。

(2) 単元観

今まで遊びの指導ではフープ取りゲーム、感触遊び、水遊び等様々な遊びを行ってきた。特に、ボール遊びでは児童全員が興味を持って楽しく遊んでいた。そこで、児童全員が楽しんで遊ぶことができるボール遊びを行いながら児童の課題である数の概念、数唱、数量の比較等を身につけることができるような活動を設定する。ころころキャッチゲームは、机の上で転がるボールを机から落ちると同時に容器でキャッチするゲームである。転がってくるボールをよく見て、目で追いキャッチすることで追従性眼球運動や目と手の協応を身につけることができる。また、友達がゲームをやっている様子を見ることで、友達の真似をしながらどうしたらうまくキャッチできるか考える力や応援したり喜びを共有したりアドバイスしたりすることで友達同士の関りにもつながると考える。

(3) 指導観

本題材を通して、まずは児童の楽しむ気持ちを大切にしながら活動に取り組んでいく。ゲームの中での数える活動では実態に応じた教具を使い、１人でもしくは教師の少しの支援で数量がわかるようにし、数の概念や数字が理解できるようにする。また、友達の活動をよく見て、うまくキャッチする方法を考えたり、友達に教えてもらう等と友達同士で関りながら活動してほしい。その時、教師が良いところは褒めたり、積極的に応援をしてお手本になることで児童同士の関りを引き出すようにする。単元の後半では児童のみでころころキャッチゲームに取り組むようにして、児童同士での遊びが広がるようになってほしい。

３．単元目標

ころころキャッチゲームに積極的に参加し、楽しんで遊ぶことができる。

４．単元の観点別目標（評価規準）

(1) 数の概念や数量等を理解することができる。【知・技】
(2) 友達にアドバイスしたり真似する等して数え方、キャッチの仕方を考えることができる。【思・判・表】
(3) 児童同士で楽しんでコロコロキャッチゲームに取り組むことができる。【主体】

５．学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1～7 【本時】	○ころころキャッチゲーム 数えてみよう	○	○	
二	8～12	○ころころキャッチゲーム どっちが多いか考えてみよう	○	○	
三	13～15	○ころころキャッチゲーム 自分たちであそんでみよう		○	○

６．単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・補助具を使って一人でボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
B	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
C	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	・友達や教師と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
D	・一人でボールの個数を数えることができる。 ・ボールをよく見てキャッチすることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	・友達や教師と一緒に楽しんで遊ぶことができる。

７．本時の学習（ 一の７時）

(1) 本時の目標

①自分なりの方法でキャッチすることができる。

②教師と一緒にボールを数えて、キャッチしたボールの数がわかる

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
B	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
C	・教師と一緒にボールを数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、ボールを取ることができる。	
D	・一人でボールの個数を数えることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	

(3)本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入5分	○教師がキャッチしたボールを一緒に数える。		・良い手本や悪い手本を見せて、どうすれば上手にキャッチできるかを考えることができるようにする。	
展開35分	○ころころキャッチゲーム ・容器を選ぶ。	【思･判･表】	・大、中、小３つの容器を用意して自分で選ぶことができるようにする。	
	・ボールをキャッチする。	【知・技】	・ボールをよく見てキャッチするように言葉かけをする。 ・見ている児童に応援するように促す。 ・上手にキャッチしている児童をほめ、見ている児童にも共有する。	
	・補助具を使ってボールを数える	【知・技】	・児童と一緒に声に出して数えて数を意識できるようにする。 ・キャッチしたボールの数があっていたらほめる。	
	・白板に数字カードとキャッチした数のマグネットをはる。	【知・技】	・児童と一緒に声を出して数えながらマグネットをはる。	
	・マグネットの数をみてだれが一番多いか考える。		・誰が一番多いか問いかけて、考えることができるようにする。	
	今日の振り返り		・今日の活動で良かったことや楽しんでいたことを振り返る。	

８．本時の評価基準

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
A	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
B	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
C	◎補助具を使って一人でボールを数えることができた。 ○教師と一緒にボールの数を数えることができた。 △数を数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。
D	◎一人でボールを数えることができた。 ○教師の少しの支援でボールを数えることができた。 △ボールを数えることができなかった。	◎一人で容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 ○教師の促しを受けて、容器を選び、ボールをキャッチすることができる。 △遊びに取り組むことができなかった。

個別の評価記録　遊びの指導「単元名：コロコロキャッチゲーム」

児童名：４年　Ｄ

１．単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・一人でボールの個数を数えることができる。 ・ボールをよく見てキャッチすることができる。	・キャッチする容器を自分で選び、自分なりの方法でボールを取ることができる。	・友達と一緒に楽しんで遊ぶことができる。
④個別評価	・一人で個数を数えることができた。 ・ボールを見ることはできてきたが、キャッチミスも見られた。	・自分で容器を選択したり、容器の持ち方を友達から教えてもらったりしたことで、自分なりの方法でボールを取ることができた。	・容器にボールが入ると声を出して喜び、楽しむ様子が見られた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	○転がってくるボールを目で追うことができ、容器に入るようになってきた。 ○友達の動きを観察して、容器の選択や自分なりの持ち方を工夫する様子が見られた。 ●同じ場所でのキャッチが多く、左右に転がすと身体を移動するタイミングが合わないことが多かったので、足の動きを取り入れた遊びも展開する必要がある。		
⑥単元の成果と課題	○音の出る数字絵本やボールの個数が確認できる教具を活用したことで、数えることに興味を持つことができた。 ○授業以外でも友達と関わるようになったり、友達の間違いに気付いて教え合ったりする様子が見られた。 ●遊びの中に算数的要素を取り入れてみたが、数の概念は獲得するためには、更に繰り返し学習する必要がある。		

２．本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	・コロコロキャッチの遊び方を知る。	○			○教師や友達が遊ぶ様子を見て、転がってくるボールを取ることは理解できていた。 ●転がってくるボールを容器に入れずに手で取ってしまう。
	2	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△	△		○転がってくるボールを途中までは、目で追うことはできていた。 ●容器にボールを入れることはできず。
	3	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△	△		○転がってくるボールを容器に入れようとする。 ●手で取ってから容器に入れる。
	4	・転がってくるボールを容器に入れることができる。	△			・１～２個までは、転がってくるボールを手で取っていたので、容器を変更。 ○容器にボールを入れようとする様子が見られた。
	5	・容器を選択して、一人でボールを入れることができる。			△	・前回と同じ容器を自分で選択。 ・教師の手添えで容器の位置を一緒に確認する。 ○教師と一緒にボールを容器に入れることができ、声を出し喜ぶ。
	6	・容器を選択して、一人でボールを入れることができる。	○		○	・前回と同じ容器を選択。 ○ボールのスピードを遅めにすると、ボールを容器に入れることができた。
	7	・一人で、ボールの個数を数えることができる。	◎	◎		・容器を自分で選択。 ○一人でボールの個数を数えることができた。

二	1	・ボールの数の比べ方を知る。		○		・友達と自分のマグネットの数を一つ一つ指差し確認して、数を比べていた。
	2	・ボールの数を比べて、大きい数を選択することができる。	◎	◎		○マグネットを一つずつ指で確認しながら、数を指差しで合図していた。
三	1	・友達と一緒に遊ぶことができる。				欠席
	2	・友達と一緒に遊ぶことができる。			○	○ゲームの流れを理解していて、友達が転がすボールをキャッチしていた。 ●自分でやりたい気持ちはあるが、友達の支援が多く、困っていた。

５・６年　日生「むしばきん、ばいばいきん」　【８月】

〈題材の概略〉

本学習グループは男児４名、女児２名の計６人で構成されている。これらの児童の中で虫歯及び虫歯になりそうな歯を有しているものが５名である。また、残りの１名に関して、虫歯は無いがびっしりと歯石が詰まっている。そのため、全員に共通して実態に応じた歯磨きの指導が必要とされる。

児童の適切な歯磨きを阻害する要因として①口腔内は、自己の身体の一部でありながら、見えないためイメージ化が困難である。②磨く場所によってブラシをうまく持ち変える手指の操作が必要でありその技能に乏しい。③毎日、歯を磨くことの意義が理解できない。以上の３点が挙げられる。

本題材では、上記の問題に対して鏡や歯のモデル等を活用しながら、できるだけ分かりやすく授業を展開していく。

〈授業研究の実際〉

① 学級担任２名の話し合いにより、年間通して適宜歯磨きに関する特設授業を行うことを確認。

② １回目の特設授業後、口腔内のイメージが出来ていないことから、手鏡を使っての指導を開始。

③ ２回目の特設授業(研究授業)にて、技能を高めるために歯ブラシの持ち替え方を確認。さらに、歯磨きと虫歯の関係を再確認。

④ 授業後、見学者からのアドバイス等を生かしながら、日々の指導に努めている。

⑤〈授業研究の成果と課題〉成果→○　課題→●

○ 各々が歯磨きにかける時間が長くなり、磨き残しが無いように意識して磨いている様子が見られるようになった。

○ 鏡を使うようになり、口腔内を確認しながら各部位に工夫しながらブラシを充てるようになった。

○ 「食べたら磨く」の知識に関する学習から、食後、促されなくても歯磨きに向かうようになった。

● 口腔内のイメージ(歯並び等)の獲得、及びそれをくまなく磨く技能の習得。

● 口腔内の感覚過敏により、仕上げ磨きが難しい児童がいるため、過敏の緩和が求められる。

● 学校生活だけでなく、家庭生活、社会生活においても「食べたら磨く」ことの習慣化。学校での活動を実生活へ汎化する。

日常生活の指導　学習指導案

令和２年８月２７日木曜日２校時　場所：5.6年教室
小学部　5.6年　男子４人　女子２人　計６人
指導者　CT：桃原勇二　　ST：秋田菜々

【身に付けさせたい力】
・歯をきれいに磨く意義とその技能、習慣

１．題材名「むしばきん、ばいばいきん」

２．題材設定の理由

(1) 児童観

本学習グループは男児４人、女児２人の計６人で構成されている。主たる障がいとして知的障害を有しているが、中には染色体異常、脳梁欠損症を併せ持つ児童も在籍している。歯科検診の結果６人中５人の児童が虫歯及び虫歯になりそうな歯があり、また、１人の児童は歯石の除去が必要な状況にある。児童の特性として、学習で得た知識・技能等が身につくまで、繰り返し指導を継続しなければならないことがあげられる。また、歯磨きに関して、十分な技能を持ちながら習慣化されていない児童がいる。

(2) 題材観

健康な歯を維持することは自己の健康を保持する上で重要なことである。しかしながら、本学習グループ児童において自己での歯磨きは困難なものとなっている。その理由として①口腔内は、自己の身体の一部でありながら、見えないためイメージ化が困難である。②磨く場所によってブラシをうまく持ち変える手指の操作が必要でありその技能に乏しい。③毎日、歯を磨くことの意義が理解できない。以上の３点が挙げられる。本題材においては、３つの事項に関してできるだけ分かりやすく取り扱い、習慣として持続可能なものとしていきたい。

(3) 指導観

指導に際しては、知識・技能等において習得が困難である「歯磨き」という難しい題材に対して、児童が楽しんで知識を学べるよう、人形劇を用いたり、口腔内をイメージ化・視覚化できるようモデルや鏡を使用したりする。また、くまなく磨けるようブラシの持ち替え等にも着目し指導していく。さらに、給食後の歯磨きを通して、学習したことの確認を行い習慣化につなげたい。

３．題材目標

(1) 歯磨きをする意義を理解し、技能を身につけ、日々の実践につなげることができる。（Ⅱ−Ａ課程の児童）

(2) 食後に歯磨きをすることを確認し、教師と一緒に取り組むことができる。（Ⅱ−Ｂ課程の児童）

４．題材の観点別目標（評価規準）

(1) 歯磨きの意義(適時)を知ることができ、自分で(教師と一緒に)磨くことができる。【知・技】

(2) 模型や鏡を見て、口腔内をイメージすることができる。【思・判・表】

(3) モデルを見ながら、合図に従い(教師と一緒に)実際に歯を磨くことができる。【主体】

５．学習計画と評価計画

時	主な学習活動	評価の観点		
		知・技	思・判・表	主体的
1	ライオン全国歯磨き大会	◎	○	
2	むしばきん、ばいばいきん‼(本時)	◎	○	
3	見てみよう、細かく磨いてみよう		◎	○
4	目指せ歯磨きマスター　～仕上げいらずへの道～		○	◎

※本題材については、まとまった一つの単元として取り扱うのではなく、日常生活の指導として日々取り組んでいる食後の歯磨きについて、必要な事項を補完するために各学期に一回程度で適宜設定している。

６．単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	歯ブラシの持ち替えができる。	鏡及び模型をみて、自分の歯の磨く部分がわかる。	食後、歯磨きをすることができる。
B	歯磨きをすることで、虫歯予防になることがわかり、自分で丁寧に磨くことができる。	口腔内をイメージしてブラシを操作し、くまなく磨くことができる。	磨き残しがないことを意識して磨こうとする。
C	歯磨きをすることで、虫歯予防になることがわかり、自分で丁寧に磨くことができる。	口腔内をイメージしてブラシを操作し、くまなく磨くことができる。	磨き残しがないことを意識して磨こうとする。
D	歯磨きをすることで、虫歯予防になることがわかり、自分で丁寧に磨くことができる。	口腔内をイメージしてブラシを操作し、くまなく磨くことができる。	磨き残しがないことを意識して磨こうとする。
E	歯磨きをすることで、虫歯予防になることがわかり、自分でおおよそ磨くことができる。	鏡及び模型をみて、自分の歯の磨く部分がわかる。	モデルを模倣して、自分の歯を磨こうとする。
F	歯ブラシを口に入れて動かし、一部を磨くことができる。	教師と一緒に、模型を見ながら歯を磨く。	歯ブラシを自分で動かそうとする。

７．本時の学習（２時）

(1) 本時の目標

①歯磨きの必要性を知ることができる。

②歯ブラシを持ち替えながら、歯を磨くことができる。

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	歯ブラシの持ち替えができる。	歯ブラシを意図した歯にあてることができる。	離席せず、教師の話を聞くことができる。
B	歯磨きをすることで、虫歯予防に繋がることがわかる。	モデルと鏡を見ながら、指示した部位にブラシをあてることができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる
C	歯磨きをすることで、虫歯予防に繋がることがわかる。	モデルと鏡を見ながら、指示した部位にブラシをあてることができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる
D	歯磨きをすることで、虫歯予防に繋がることがわかる。	歯の裏側まで意識する。	丁寧に磨こうとする。
E	歯磨きをすることが、自分にとって良いことだとわかる。	模型を見て、自分の歯と同じ部分に歯ブラシをあてて動かす。	自分なりに丁寧に磨こうとする。
F	歯ブラシを口に入れて動かすことができる。	教師と一緒に、模型を見ながら歯を磨く。	歯ブラシを自分で動かそうとする。

(3)本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入15分	①はじめのあいさつ ②人形劇 「くいしんぼうのパンダ」 ・お菓子をあげたい人は、前に出てお菓子をあげる。 ③人形劇 発問「どうして、パンダは歯が痛いのでしょうか？」	【主】 【知】 【思・判・表】	CT：人形劇を展開（１） お菓子を見つける→食べまくる ST：目視できない児童に言葉かけをしながら、一緒に鑑賞する。 CT：人形劇を展開（２） 歯が痛い→どうする？ 何をしなかったから？ ST：出た意見を板書してまとめる ・歯磨きしてない ・虫歯 ・歯周病(歯肉炎等) ・その他 この４つに大別してまとめる。	・パペット人形 ・お菓子カード
展開20分	④出た意見から、歯磨きすることの大切さを知る。 ・板書された意見を教師と一緒に確認する。 ⑤自分がきれいに歯磨きできているかを考えよう。 発問「いつも、自分一人で、きれいに歯磨きできていますか。」 ⑥歯磨きの練習をしてみよう。 ・手鏡と教師のモデルを見ながら、一緒に歯磨きをする。 ・右下奥歯か→下前歯→左下奥歯→右上奥歯→上前歯→左上奥歯 ※上記の順に磨く ・終わったら、うがい。	【知】 【思・判】 【思・判】 【主】 【知・技】 【思・判】	CT：板書された意見を、歯磨きと虫歯に関連付けて説明する。 CT：ヒント①「みんなには虫歯が・・・・」 ヒント②「必ず仕上げ磨きが・・・」 ということは？ CT：①歯ブラシの持ち方(持ち替え)の確認 ②モデルを示して、歯磨きをする。 ST：歯ブラシを自力保持できない児童の支援に当たる。	・歯磨きセット ・口内炎等、痛がるときは無理には行わない。
まとめ10分	⑦人形劇 あれっ誰か忘れているよ ・児童に歯磨きしてもらう ⑧再度かくにんする。 発問「どうして、歯磨きが必要なのですか？」 ・板書を見ながら確認。	【主】 【技】 【思・判】 【知】	CT：歯ブラシの持ち方を確認しながらきれいにみがけました。めでたしめでたし。 CT：板書された内容を取り上げながら、知識の強化につなげる。	

８．本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎モデルをみて歯ブラシを持ち替えることができる。 ○支援を受けて歯ブラシを持ち替えることができる。 △持ち替えることが難しい。	◎指示された歯にブラシをあてることができる。 ○支援を受けて、正しくブラシをあてることができる。 △正しくブラシをあてることが難しい。	◎最後まで、離席せずに教師の話を聞くことができる。 ○離席しても、自ら戻って着席することができる。 △離席したまま戻ってこない。
B	◎歯磨きに関する質問に正しく回答できる。 ○歯磨きに関する質問にヒントを得て回答することができる。 △回答することが難しい。	◎意図した部位にブラシをあてることができる。 ○支援を受けて意図した部位にブラシをあてることができる。 △意図した部位に歯ブラシをあてるのが難しい。	◎発問に対して、積極的に答えることができる。 ○促されて、発問に答えることができる。 △発言することが難しい。
C	◎歯磨きに関する質問に正しく回答できる。 ○歯磨きに関する質問にヒントを得て回答することができる。 △回答することが難しい。	◎意図した部位にブラシをあてることができる。 ○支援を受けて意図した部位にブラシをあてることができる。 △意図した部位に歯ブラシをあてるのが難しい。	◎発問に対して、積極的に答えることができる。 ○促されて、発問に答えることができる。 △発言することが難しい。
D	◎歯磨きに関する質問に正しく回答できる。 ○歯磨きに関する質問にヒントを得て回答することができる。 △回答することが難しい。	◎模型を見て歯の内側まで意識して磨く。 ○模型を見て歯ブラシをすみずみまで動かそうとする。 △意識して磨くことが難しい。	◎丁寧に磨こうとする。 ○支援を受けて、丁寧に磨こうとする。 △丁寧に磨くことが難しい。
E	◎歯磨きに関する質問に回答できる。 ○歯磨きに関する質問にヒントを得て回答することができる。 △歯磨きに関する質問の回答が難しい。	◎模型を見て同じ部分に歯ブラシをあてる。 ○模型を見ながら歯磨きをする。 △模型を見ることが難しい。	◎集中して丁寧に磨こうとする。 ○いろいろな部分を磨こうとする。 △磨こうとすることが難しい。
F	◎歯ブラシを持って動かす。 ○歯ブラシを持つ。 △歯ブラシを持つことが難しい。	◎模型を見ながら教師と一緒に歯を磨く。 ○模型をみる。 △見ることが難しい。	◎歯ブラシを数回自分で動かす。 ○歯ブラシを口に入れる。 △歯ブラシを口に入れることが難しい。

９．授業の評価のポイント

(1) 本時の目標を達成するための手立て(授業の展開・教師間の連携等)は適切であったか。
(2) 発問の仕方、児童が考える場面の作り方が適切であったか。

個別の評価記録　日常生活の指導「むしばきん、ばいばいきん」

児童名：６年　　Ｃ　　担当者名：桃原勇二

１．題材の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	歯磨きをすることで、虫歯予防になることがわかり、自分で丁寧に磨くことができる。	口腔内をイメージしてブラシを操作し、くまなく磨くことができる。	磨き残しがないことを意識して磨こうとする。
④個別評価	歯磨きと虫歯の関係をよく理解している。	スムーズに歯ブラシを持ち替えることができる	鏡を見ながら、意識して磨いている様子がみられる。
④評定	◎	○	○
⑤学習の成果と課題	【成果】歯ブラシの持ち替えがスムーズになり、授業では扱っていない「鉛筆持ち」等もできるようになっており、技能の獲得が見られた。 【課題】歯磨きと虫歯の関係を理解しているが、歯磨きの適時に関しては未だ理解に乏しい。		
⑥題材の成果と課題	【成果】①一回目の特設授業(ライオン全国歯磨き大会)の後、手鏡を使っての指導を行った。その結果、普段から鏡を持ち口腔内を見ながら歯を磨くようになった。②各々、給食後、歯磨きにかける時間が長くなっている(意識しながら磨いている)。 【課題】①一人の児童を除いて、歯の内側や奥歯の外側等、見えていない部分に関してのイメージが形成されていないのか、磨くことができていない。②一人の児童について、歯磨きについての知識や技能は申し分が無いが、「毎日、適時に行う」という生活につなげることが難しい。		

２．本時の個別の観点別目標と観点別評価

時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
		知	思	主	
1	なぜ虫歯になるのかを知ることができる。	○	◎		ライオンから送られてきたビデオの一部を視聴したが、すべてを理解するには難しかった。歯磨きと虫歯の関係については理解できていたように思う。
2	歯ブラシを持ち替えながら、磨くことができる。	◎	◎	◎	鏡とモデルを見ながら、しっかり持ち替えてブラッシングすることができた。
3	磨き残しがないように、隅々まで磨くことができる。				
4	歯磨きの意義、適時を知り歯磨きをすることができる。				

※　個別の評価記録(④・⑤・⑥)については、全４回中、２回終了時点での評価及び成果と課題となっている。

４　宮特授業改善のポイント

１学期に研修部より提案した「宮特授業改善のポイント」を意識して行った授業の工夫についてアンケート調査を行った。学習グループ毎に様々な工夫がされていることがわかった。アンケートは集計を行い、学部内で情報の共有を行っている。以下、主なアンケート集計結果。

○→行った工夫（成果）　　●→難しかったこと（課題）

①　子供が、学習の意義や学習の計画を理解し、見通しを持つためにどのような工夫をしましたか？(めあてや学習計画の提示の工夫)

○活動前に活動の写真（しゃぼん玉、風船）や行く場所の写真を見せる。

○プログラムの絵カードを用意し、プログラムが終わった後、児童（教師の手添えあり）自身にとってもらって「終わり」を意識させた。

○２～３週にわたって行う製作等では、１週目はここまで、２週目は色塗り等、おおまかな工程を示した。

☆　手洗い　→　調理学習　→　プレゼントして喜ばれる

☆これまで学習した内容を次の授業に活かし、意義を改めて理解させるように工夫

●計画までは理解させることは難しかったかな・・

②　子供が考え、判断する場面の設定のためにどのような工夫をしましたか？ (教わる学習と考える学習のバランスや工夫)

○遊びの授業では最低限のルールだけ。例えば玉入れ→①玉をかごに入れる。②人に投げない。というルールだけで開始。すると玉を２つ一気に入れる、走って近くまで行って投げる等の工夫が見られた。

○パワポを活用し、誕生会の計画を立ててみたけど、「○○をやりたい！」と自分達の言葉では出てこず、選択肢にすることで、選んで答えていた。ただし、選んだ内容は覚えていて、誕生会で「○○をする」ということは何度も話していた。

○できない、わからない場面になると、ある程度考えさせる時間を設定。児童同士のかかわりが見られたら、その様子を観察。→子供のつぶやき等を拾う→よかったことは全体で共有。

○自由に答えるオープンクエスチョンは言葉に詰まることが多いので、わかりやすく「選択肢」を設けている。そうするとすぐに答えてくれる。その後に「なぜ」この答えなのかを聞くと、細かい理由が出てくる。

③　子供が振り返り（評価）を通して学びを意識化するためにどのような工夫をしましたか？ (子供に伝わる評価の工夫)

○音楽リズムうちの活動をすぐ動画で振り返り、教師の合図をきちんと見ていない場面や、楽器を持って静かに待つ等、課題や良かった点がはっきりわかって指導しやすかった。

○授業の終わりに子供が授業で一番表情が良かった、反応があったことを教師が代弁し、振り返りの時間を作った。

○作品を皆に見せる。工夫をしてた所、ステキな仕上がり具合を共有。さらに、教室の外に掲示して、担任以外からも評価。

○児童がうまくできたときには、前に出て発表することで、意識化を行った。

●その時間はできたが、次の時間になるともう一度はじめからやらなければできない、というように定着に至るのはなかなか難しかった。

５　学部内報告会

10・11 月に、各学習グループ（６グループ）が行った実践研究の報告会を行った。それぞれのグループが単元を通してどのように観点別評価を実施し、授業改善につなげているかという情報を共有することができた。以下、学部内報告会の主な感想集計。

幼稚部・１年「遊びの指導」の実践報告について

○　「段ボールの取り合いも関わりの一つ」確かに自分たちは望ましい関わりを求めることがあるが、改めて色々な関わり合いがあることを学ぶことができた。また、関わり合いというのは、授業をしている時は、安全管理などで見落とすことがあると思うが、映像に残すことで、改めて小さな関わり合いにも目を向けることができた。

○　一人遊び、グループ遊び、集団遊び色々あると思いますが、環境の設定や遊び道具の提供など、遊びの発達を考えた時に「待つ」「見守る」ということも主体的な遊びを育むことに繋がるんだと動画を見て学びました。

○　単元を通して、一人一人の子どもに対してきちんと評価がされていてよかった。

○　計画していた指導をこなすのではなく、育てたい資質・能力のために指導を柔軟に変えていくというのはいいですね。活動のための授業ではなく、資質・能力育成のための授業になっていると思いました。

２・４年「自立活動」の実践報告について

○　繰り返し行うことで、より児童が感じることが確かなものになり、表現することへと繋がっていくのを感じた。繰り返しと継続が児童の見通しに繋がることがよくわかった。

○　目標や課題が観点別に整理されていてわかりやすかった。

○　体感から表出まで時間がかかることを理解し、「待つ」意識を持つことが大事。

○　児童の実態に沿って細かく課題設定をしていたり、その根拠が明確に示されていたので、Ｍさんの反応や表出がその成果となって表れているんだなと思いました。児童が楽しみながら学べる、興味を抱くような教材や場の設定を考えていけたらなと思い、勉強になりました。

３年「生活単元学習」の実践報告について

○　教師側がしっかりと児童毎の評価の在り方を変えている。すごいです。

○　子どもの興味・関心に沿った授業、また生活に直結した活動をしていて、実際家庭でもできそうな学習内容をしているところが参考になった。

○　単元計画の中に「ふりかえり」の授業を随所で設けていて、自分の気持ちを表現して、次を考えてまた実践するというサイクルがとても良かった。「ふりかえり」の授業をすることで、「確かな知識・技能の獲得」「考え、判断し、表現する力の育成」「次の学習への意欲の向上（主体）」に繋がると思う。

○　振り返り（自己評価）を入れた学習活動をしていて、指導と評価の一体化ってこういうことなんだ！と知ることができました。見通すことによって、活動に参加ができる、参加できたことで振り返りができることに繋がっていくんだなと見通すことの大切さを学ぶことができました。

４年「遊びの指導」の実践報告について

○　子ども達のかかわりから子どもが学ぶことも多い。

○　楽しみながら、追視の訓練と数的概念も身に付けられる良い授業だな～と思いました。キャッチする器を選択できたり、教材の工夫も素晴らしかったです。

○　毎授業後に話し合いをもち、教材等を見直すことで、子どもの実態に合わせた授業に繋がることがわかる報告だった。

○　友達の様子を見ているのがいい。友達同士教えたり、アドバイスしたりできるのもいい。

訪問「自立活動」の実践報告について

○　訪問で、同年代との交流という課題、とても面白い指導だと思いました。訪問の子にとっては、他者との関わりや、世界などはとても限られているので、子どもたちの世界を広げるという意味でもとても良い学習内容だと思いました。

○　「学校だからできること」を考えるのは良い視点だと思った。

○　動画での嬉しそうな表情から終わりの挨拶の「え？終わるの？」の表情が印象的。それができるのも教師がしっかりコミュニケーションをとって信頼関係ができている証拠だと思った。

○　訪問教育、難しいと感じます。その中で、Ｎさんの目の動きや表情を捉え、マキ先生の問いかけや言葉かけに反応を示していたので、マキ先生のテンポが参考になりました。同学年同士の交流も楽しい取り組みだなと思いました。ありがとございました。

５・６年「日常生活の指導」の実践報告について

○　歯磨き指導は「知識」「技能」「思考」は別ということを改めて感じた。３つそろうことが大切。

○　自分に虫歯があるのかの確認を「思考・判断・表現」として評価するのはとても良いと思いました。５・６年の実態にもあっており、歯磨きの意義を確認する上でもとても良いと思いました。

○　授業の内容を自分自身に置き換えることで「意義を理解する」。まさにそうだよなーと思いました。すべての授業でこういったことができると、子どもたちの主体性が育っていきますね。

○　なぜ歯磨きをするのかを考えて、知識として教える必要があると思った。

学部内報告会について

○　それぞれの実態に合った３つの観点を基にした授業を学ぶことができ、自分たちの授業を考えるうえで、とても勉強になりました。特に、学びに向かう主体性は、授業ごとに評価が異なり面白かったです。

○　授業研ではお互いの授業が見学できなかったので、単元の取り組みも含め、報告会はとても勉強になります。面白いです。みなさん熱心でとてもいい刺激を受けました。

○　どの発表も、しっかり観点別評価のポイントを押さえていて、研究の成果が見られました。

6　小学部研究の成果と課題

〈成果〉

○　全職員が学習指導案や評価記録簿の作成に関わり、教師間で話し合いを持つことで、観点別評価に関する理解を深め、実践力を高めることができた。

○　学部報告会を持つことで、お互いの実践内容や実践の成果と課題について共有することができた。

〈課題〉

●　自立活動について観点別評価を行うことへの議論が不十分だったため、自立活動についてどのような評価方法を実施すべきかということは今後の課題となった。

●　学習指導案と個別の評価記録の作成への負担感が大きいため、効果性を高める様式の検討が必要。